

第五章 戦略無き経済支援

1 支援で失った日本の国威

「日本は資源の無い国である、だから外国から原料を買って、それを加工し、製品として輸出して国を発展させるしかない」

これは中学生の頃、先生から聞かされていた言葉であり、それは国の宿命として国民が認識し、世界でも優れた製品を生み出してきた活力の源とも言えるもので、精神のバックボーンと言っても良いかも知れなかった。

ところが現在の経済界は、先人が築き上げてきたこれらの製造業を、いとも簡単に、「反日」教育や、「反日」記念館を増設している中国に売り渡しているのである。およそ国家の常識が疑われるものとして戦略性が問われるのは間違いない。

「反日教育」の国へ製造工場を提供する国家戦略など聴いたことも無いが、当然のように国民は働く場所を失い、生活は苦しく、格差社会は拡大の道を歩んでいるが、それを原因のひとつとして報道するメディアはあまり観たことがない。

「日中友好」の信義がない中国は、「日本は政治、経済ともに力を失い、二十一世紀のアジアは中国の時代になる」という。中国共産党幹部が、アジア諸国で語っている言葉であり日本は対応を過つてはならない。政治家も経済界も、これを気にしているようには見えないうが、明らかに日本の支援が中国を変えたのである。

日本が経済協力を中止したとき中国は日本の存在の大きさに気がつくだろうが、これは日本が国威を回復する唯一の道として重要な問題である。核武装を除くと、それでやっと「対等」な外交が始められることを考えるべきではないだろうか。

日本の経済支援で中国、韓国が力をつければ、相対的な現象として日本の立場や価値が下がるのは当然であり今更驚くものではないが、中国の悪意がこれ程になるとは毛筋ほども考えていなかった政府が甘かったと言っしかない。

日本のメディアまでも味方に付けた江沢民は、堂々と自信を宣告したことになるが、そうさせた原因は、日本の政治家と経済界の国家観のなさにあると言わなければならない。中国や韓国は、日本の経済支援で力を蓄えるまでは現在のような傲慢さはなかった。それどころか、慇懃な態度を示していたのである。

戦前を知る政治家が健在な戦後の映像を見るかぎり、中国や韓国の態度が現在のように傲岸不遜には見えない。戦後、日本の、異常なへりくだりが、「無礼」な態度となって跳ね返っているのである。相手は「反日」教育が行われている、「元寇」の国であり、白を黒と

言いかえる国であることを忘れてはならない。

彼らの国が貧しく、日本の援助を必要とした頃は明らかに日本の名譽は守られていた。政治家が、「古典中国」の妄想で、日本の没落を顧みず、無節操な経済協力を続けるならば、それは明らか「反国家行為」と言すべきなのである。

今や中国は、近隣アジア諸国を援助金で抱き込み、国連の場を利用して「反日」行動で共同歩調をとらせるなど着々と地歩を固めており、中国の戦略がここまでできている事実を、政治家が「我関せず」ではあまりにも問題が大きいのと言わざるをえない。

江沢民は、「反日」教育の片方で、日本に企業進出を懇願し、中国の著しい経済発展を遂げさせてきた二枚舌の天才でもある。彼の手にかければ親中派など赤子のようなもので、日本が思うように操られる惨めさだけが際立っているのである。

江沢民が、日本の数多くの政治家、経済人を、中国共産党国家の「属団体」として取り込んだうえ、人民の「反日」行動を全て日本の責任として嘯くようになったのは、日本の経済支援で中国が発展した後のことである。

新聞報道された中国要人の談話は更に明確で、「中国は韓国「竹島」問題で連携する」とも語った。中国が：である。自国と無関係な問題に口出しするようになったのは、両国が明確な日本の「敵対」国家として宣言したに等しい。

更に「中国が、日本に対して強硬姿勢を取るのには、日本に、中国の主権に対する決意を見せ、困難さを知らしめてこの問題を妥当に処理する為だ」と語り、「歴史認識」で批判を続けなければならない。そうしなければ、「中国は国際的にも守勢に回るからだ」とまくし立てる。中国の悲鳴に似た主張は戦略以外のなものでもないのである。

中国の主張する「歴史」が守勢に回らないための、先手必勝、「反日」批判なのである。脅かせば何でも言うことを聞く国だと思っている敵対宣言と言えるのだが、全ては過去の親中政治家の足跡と言っていていいだろう。

日本を侮った戦略が高らかに宣言されたところで日本の政治家の勇気を期待するしかないのだが、親中政治家が健在な限り、日本が危機的状況にあることに変わりはない。それは対韓国事情も同じである。

「日本が、主権を主張する目的は、植民地時代の占領を合法化することが狙い」などと、井戸端会議に出てくるような発言は、「元寇」の侵略問題を取上げられて守勢に回ることを極度に嫌がり、日本の主権さえも否定している断末魔なのであろう。

更に「日本の目的は、独島（竹島）問題の国際化にある。歴史問題を解決できなければ、他の問題も解決は難しい」とも述べている。

日本は過去、長期に亘り、歴史論争を避けてきたが、それが大きな過ちであり、友好を思うあまり、真実の主張を諦めては侮辱されることを経験したはずである。

韓国においては、日本が「竹島」という日本固有の領土を放棄しない限り、「友好」がないことを宣言し、永遠に、「対等」の外交関係は無いと言っているのと同じである。